

教科	地歴・公民	科目	公共	単位数	2 単位	学年	1 年	コース	EAPL
使用教科書	公共(実教出版)			使用副教材等	なし				

目標	人間の社会の在り方についての味方・考え方を働かせ、現代の諸課題を迫及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト、ワークシート	定期考査、小テスト、ワークシート、ノート、レポート	レポート、発表、活動の様子など

担当者からのメッセージ	公共は、新しく新設された科目です。現代の社会は、急速な社会変化により複雑化し、今後について予測困難な世の中となっている。そのような厳しい挑戦の時代を迎える中で、これからの社会を創り出していかなければならない君たちが、どのようにして社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくのか、様々な問いを一緒に考えながら、必要な資質・能力を養っていき。日頃から、新聞やニュースを見る習慣をつけておくと、世の中の流れが見えてきますよ。
-------------	---

学期	月	学習内容 学習のねらい	観点別評価規準
1	4	第1章 社会を作る私たち ・自らの体験などを振り返ることを通して、自ら成長させる人間としての生き方について理解させる。 ・社会に参画する自立した主体として、地域社会などの集団的の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などを作る存在であることを考察し、表現させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期の意義と特徴について理解している。(知識)</li> <li>・資料「第二の誕生」から、第二の誕生がどのような状態であるかについて読み取ることができる。(技能)</li> <li>・自我について、多面的に考察している。人生における青年期の意義と特徴について、多面的に考察し、適切に表現している。(思考・判断・表現)</li> <li>・よりよい社会の実現を視野に、青年期の発達課題や自己形成の課題への深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)</li> <li>・よりよい社会の実現を視野に、職業や社会参加の意義への深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)</li> <li>・日本人の伝統的な自然観や伝統的な倫理観の特徴について理解している。(知識)</li> </ul>
1	5	第2章 人間としてよく生きる ・人間は、個人として尊重されるべき存在であるとともに、様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的存在であること、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や行為の動機となる公正な義務を重視する考え方などについて理解させる。 第3章 他社とともに生きる ・現代の諸課題について自らも他社からも共に納得できる解決方法を見出すことに向け、人間としての在り方に生きたについて探求することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の幸福な生き方についてのソクラテス、プラトン、アリストテレスの考え方を理解している。(知識)</li> <li>・新しい学問のあり方を唱えたベーコンとデカルトの考え方について理解している。(知識)</li> <li>・帰納法と演繹法について、どのような例が考えられるかを協働的に考察・検討し、それらを適切に表現している。(思考・判断・表現)</li> <li>・よりよい社会の実現を視野に、社会参画や他者とともに公共性を確立することについての先哲の考え方への深い理解を通して、公共的な空間における人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)</li> </ul>
1	6	第4章 民主社会の倫理 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。 第5章 民主国家における基本原理 ・個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、自由・権利と責任・義務といった公共的な空間における基本的な原理について理解しようとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)</li> <li>・政治と国家、政府が何であるかを理解している。(知識)</li> <li>・民主政治が成立した経過と基本原理について理解している。(知識)</li> <li>・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、民主主義といった公共的な空間における基本的な原理について理解しようとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)</li> </ul>
1	7	第2編 より良い社会の形成に参加する私たち 第1章 日本国憲法の基本的性格 ・法や規範の意義及び役割など、法や規範に基づいて調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解させる。我が国の安全保障と防衛などに関わる課題を基に、日本国憲法の平和主義について理解を深める。変化する国際情勢の中で、我が国の安全が世界の平和の維持といかに不可分に関連していることについて理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法の成立の背景について理解している。二つの憲法の原理と相違点について理解している。(知識)</li> <li>・自由権・平等権・社会権などの諸権利の内容について理解している。(知識)</li> <li>・冤罪や死刑制度、さまざまな差別、生存権の保障など、人権に関する現実社会の課題について理解している。(知識)</li> <li>・新しい人権について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。(主体的に取り組む態度)</li> <li>・日本国憲法の平和主義の内容と日米安保体制がうまれた背景について理解している。(知識)</li> <li>・自衛権に関する政府解釈の変化を読み取ることができる。(技能)</li> <li>・1990年代以降の安全保障体制の変容とこんにちの課題について理解している。(知識)</li> </ul>

2	9 第2章 日本の政治機構と政治参加 ・憲法の下、適正な手続きに則り、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解させる。政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄を基に、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解させる。現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国会の役割や権限、運営について、衆議院の優越について理解している。(知識)</li> <li>・内閣の権限や議院内閣制のしくみについて理解している。(知識)</li> <li>・司法権の独立や裁判のしくみ、各裁判所の役割について理解している。(知識)</li> <li>・地方自治の本旨である、団体自治と住民自治について、地方自治の政治・経済的な課題について理解している。(知識)</li> <li>・選挙制度について関心を深めており、デジタル時代の選挙のあり方の課題を意欲的に解決しようとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)</li> <li>・政治と民意の関係について主体的に追究し、民意を政治に反映させるための課題を意欲的に解決しようとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)</li> </ul>
2	10 2 現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会 ・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解させる。諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けさせる。具体的な主題を設定し、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産・分配・消費、希少性、トレードオフ、機会費用など、経済の根本的な概念について理解している。(知識)</li> <li>・市場経済における生産要素の効率的な配分や、政府の適切な施策について多面的・多角的に考察、構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(思考・判断・表現)</li> <li>・企業の社会的責任や法令順守の姿勢について主体的に追究して、企業の不祥事が相次いでいる現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)</li> <li>・NIの生産・分配・支出のそれぞれの内容とともに、3つが理論的に同額になることを理解している。(知識)</li> <li>・現在においては、GDPなどの経済指標では計りきれない福祉的側面からの指標や環境的側面からの指標、社会的側面からの指標などがあることを理解している。(知識)</li> <li>・金融は、信用創造等により、家計や企業からの資金を様々な経済主体に投資することで資本を増加させ、生産性を高め、社会を豊かに発展させる役割を担っていることを理解している。(知識)</li> <li>・政府の経済政策には、効率と公正、経済成長と環境保全など、相互に対立する可能性のある目標の実現を調整する必要があることを理解している。(知識)</li> </ul>
2	11 第2章 日本経済の特質と国民生活 ・多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解させる。具体的な主題を設定しその主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後復興、高度経済成長、バブル経済の発生と崩壊などの背景や要因について理解している。(知識)</li> <li>・6次産業化や高付加価値農産品、スマート農業の進展など農政の新しい動きに注目し、これらの学習の成果を将来の職業選択などにおいて生かそうとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)</li> <li>・消費者の自立と自己責任について関心を深め、消費者の権利と責任に関する課題を意欲的に解決しようとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)</li> <li>・日本における公害の発生と原因を理解している。また四大公害訴訟に関する表から、必要な情報を適切に読み取っている。(知識・技能)</li> <li>・日本の公害問題と環境政策に関する理解のもとで、今後の環境問題の解決方法について主体的に追究して、課題を意欲的に解決しようとしている。(主体的に学習へ取り組む姿勢)</li> <li>・労働基本権と労働三法の内容について理解している。また職場における不当な差別的扱いがあってはならず、そのための法整備と対策が急がれることを理解している。(知識)</li> <li>・よりよい社会の実現を視野に、ワーキングプアの解消やワーク・ライフ・バランスの実現を目指して、学習した内容を社会生活に生かそうとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)</li> <li>・社会保障の考え方を知り、それらが歴史的にどのように制度化されてきたかについて理解している。(知識)</li> </ul>
2	12 3 国際社会と人類の課題 第1章 国際政治の動向と課題 ・国家主権、領土(領海、領空を含む。)、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割など、主権国家の行動を規律し国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解させる。具体的な主題を設定し、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主権国家と国際社会の成り立ちについて理解している。(知識)</li> <li>・国際連盟の成立と崩壊の歴史的経緯について理解している。(知識)</li> <li>・冷戦構造の概要について理解している。(知識)</li> <li>・人種問題について、公民権運動やアパルトヘイト廃止を例にして理解している。(知識)</li> <li>・よりよい社会の実現を視野に、多文化主義について学習したことを、日常生活における他者との関係において生かそうとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)</li> <li>・核保有国を増やさないためにはどのようなことが必要か、多面的・多角的に考察している。(思考・判断・表現)</li> <li>・日本の領土問題について、それがなぜ生じたのかを調べ、各国がどのような主張をしているかを参考にして、平和的な解決のために必要なことを多面的に考察している。(思考・判断・表現)</li> </ul>

3	<p>第2章 国際経済の動向と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる基に、世界経済がより緊密に結び付き、経済活動が世界的な規模で自由に行われていること、一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど、国際社会において相互依存関係が一層深まっていること、国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることについて理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由貿易のメリットを、比較生産費説をもとに理解している。(知識)</li> <li>・国際分業の利益について、多国籍企業の展開と合わせて理解している。(知識)</li> <li>・IMFとGATTに代表される国際経済体制について、GATT、WTOにおける多角的交渉が目指したものについて理解している。(知識)</li> <li>・FTAやEPAがどのようなものであるのかを理解している。(知識)</li> <li>・グローバル化と共生の課題について学習したことを、自らの生活圏内に生きる外国人労働者に対するまなざしの中で生かそうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)</li> <li>・モノカルチャー経済に依存する経済上の問題について、多面的に考察している。(思考・判断・表現)</li> </ul>
3	<p>第3章 持続可能な社会づくりの主体となる私たち</p> <p>持続可能な社会をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述させる。社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、第1部で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに、第1部及び第2部で扱った課題などへの関心を一層高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれが選択した現実社会の諸課題について、必要な知識を習得している。(知識)</li> <li>・それぞれが選択した現実社会の諸課題について、必要な情報を収集し、読み取り、まとめることができる。(技能)</li> <li>・選択した現実社会の諸課題に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通して、ともに生きる社会を築くという観点から、それぞれが選択した現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)</li> </ul>